

## Y18a 市民科学による「長野県は宇宙県」の近代天文学史 100 年の構築に向けて II

大西浩次（国立長野高専）、陶山徹（長野市立博物館）、大西拓一郎（国立国語研究所）、渡辺真由子（茅野市総合博物館）、早川尚志（名古屋大学）、野澤聡（獨協大学）、衣笠健三（国立天文台野辺山）、百瀬 雅彦、宮地美由紀（塩尻星の会）、是枝敦子（きらきら）青木 勉、小林尚人、森由貴（東大木曾観測所）、長野県星空継続観察 WG、長野県天文文化研究会、「長野県は宇宙県」連絡協議会ほか

「長野県は宇宙県」の活動で作られてきたネットワークを生かして、近代の天文学・天文文化史を研究者や市民との協働作業で明らかにする市民科学プログラムを進めている。この「長野県は宇宙県」とは、「長野県がもつ宇宙に近い」という資産を生かし、県内外の研究施設・社会教育施設・市民天文同好会などと一緒に「地域振興、人材育成、観光、天体観測環境維持」に寄与する（松本宣言,2016）ことを掲げて行っている諸活動のことである。現在、2つのワーキンググループ (WG) が調査研究活動を行っている。

一つは、星空継続観察 WG で、長野県内の天体観測環境の調査と長期モニターを行っている。この状況下で、2020 年暮れより塩尻市内のホテルでサーチライトを点灯する事例が発生し、塩尻星の会を中心とした「長野県は宇宙県」の活動によって、長野県の条例に光害防止条項が追加されることになった（衣笠ほか, 本年会）。

もう一つは、「長野県は宇宙県」に至る天文学・天文文化史の調査を行う長野県天文文化研究会の活動である。「長野県は宇宙県」の活動の原点が、諏訪天文同好会が設立された 1922 年前後にあることが分かってきた（大西ほか,2021 春年会）。そこで、現在、諏訪天文同好会の設立当時の活動を集中的に調査している（陶山ほか, 本年会）。本発表では、このような市民科学の活動で、「長野県は宇宙県」の近代天文学史 100 年を構築するための道筋を紹介する。